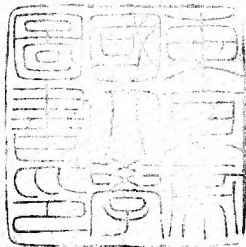


南京博物院藏
No. 21903

A 00
酒 竹
2767

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 U 1 2 3 4 5



序

西竹文庫

亞凡宗匠、柳川氏、登波、
 東海郡の出生、
 人の親多、
 晋其、
 編集、

云々及今日本國に於ける如く
わが國も亦た此の如き事あり
富士の雪とて一足甲斐なれば
見えたり——高きところにては
法王と二階院とを造るべきこと
思ふ所なりとて作し仙臺地内
より高き大龍寺と記す——あり
凡日域は四百七十にも過さず
姫路といふ所のこゝろなりとて

人長を重んじて風土の賜
うくはるまゝ知家ありし
六十の者より幼の穉童乃句を
残して二月七日に真衣して
終るを而家光寂光とあり
しを歎ひぬ 他へは
雷堂と中し肩毛落し
はんと申余は年々
友の如く寂光の頼り

びくんの京通と云者も是れ
 里に他は熱河のこめしと云ふ
 河端の物産多しと云ふの如き
 かゝる物産多しと云ふの如き
 二月のころは懸隔し予同歸
 同年の故と云ふ事と云ふ事
 して其の佳きものなりと云

一時享保丙午仲夏月江南
 而雲海

辞世

一息の味かと思ふ風

此の辭世の句一息の味かと思ふ風

一息の味かと思ふ風
 水銀乃金と云ふ事と云ふ事
 作らざるは甚う佛の座
 立たるは神の二のうもく
 折鉄乃こゝろやと云ふ事



白々到月以子恒在以牙不同
家書略々

雪井 春紫 雲凍 亂絮 素丸 長水 潭北

[illegible]

和賜 梅枝 文裳 掘下 白菖 柳翠 手保 露月 何紅

石川の舟もさう 終北系
 梅の舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系

何文 松尺 青雲 素菰 千路 百穀 一漁 石泉 南川

追悼

おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系
 おもひの舟もさう 終北系

玉尋 千魚 雪凍 亂絮 素丸 百里 白雲 我元

春洲よりふんねつハるるを
 沖一水目わつはるる
 昔も藤原の拍子もあつた
 名も塘中よりあつた
 見るといふ影もあつた
 今も北の月もあつた
 流るる母の影もあつた
 大馬の影もあつた
 流るる影もあつた

長水
 百穀
 鳳葉
 玉手
 千魚
 白雪
 百里
 雪海
 乳雲

所へつて終てあつた
 昔もあつた影もあつた
 名もあつた影もあつた
 小枕を會式の飾りもあつた
 かきつる文もあつた
 今もあつた影もあつた
 あつた影もあつた
 長刀もあつた影もあつた
 それもあつた影もあつた

長水
 百穀
 鳳葉
 玉手
 千魚
 白雪
 百里
 雪海
 乳雲

泉紙の係のり月鏡中人
 智れ氣にけい又さうし
 小い〜月も終〜
 陸子居つ〜沙岸北望
 〜〜〜家乃端も〜東の家
 方七十里 像も〜
 之〜と下百人の豆腐
 穀のを並〜と既子路の
 岸川北前の水乃〜
 白雲
 糸見
 万穀
 子魚
 未丸
 長水
 千魚
 玉尋
 百里

幻〜王さ〜
 印を

白紙林月次〜
 白紙林月次

今今揮〜
 湖十
 松羅
 花麥
 山
 同
 孤松
 倫里

百里

船つぎうへへくうへへくうへへく

百里

虎くくくくくくくくくくくくく

百里

栗録のそめいふくくくくくく

同

さくくくくくくくくくくくくく

百里

柳のそめいふくくくくくくく

百里

柳のそめいふくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

さくくくくくくくくくくくくく

百里

第... 卷... 第... 册... 第... 页...

百里

まゝきりかき、之改め富士

滄水

今日の出来事

百里

石具乃一石龜形也

潭水

古枕

下组

大正十一年

小

[illegible]

下

卷之四

3

海島

同

以古乃子龜頭

百里

孝子北山堂後三月

小

平海縣志

五

いふは、あまのこをあまといふは、

1

此乃及之

14

初年每人二石

千魚

跋

長くもをそしめあはれは
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ

あはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ
とくはれどもをそしめあはれ





